



こまつ かいぞう
小松 快造
(富岳会)

ふじのくにエネルギー総合戦略について

問 ①太陽光発電について。②小水力発電について。③バイオマス発電について。④電気自動車(EV)充電スタンドについて。⑤経済と環境の好循環について(地域循環共生圏)。

部長 ①卒FITの余剰電力については、引き続き同じ電力会社に売るか、自家消費するか需要家の考えにて選択できる。②現在では市内に18か所の水力発電所が稼働中。発電所数と発電量がともに日本一。市は新たな設置に関し関係機関と積極的に調整を図り、設置者への支援に努める。③朝霧高原地区には酪農地域があり、民間業者による牛ふんをバイオマス燃料としたバイオマスプラントが運営されている。今後も燃料の安定供給が見込めることから、畜産系のバイオマスを推進する。また他のバイオマス

燃料についても情報収集をし、調査研究を行っていく。④市は、電気自動車普及のために、家庭や事業所における充電設備の設置をはじめ再生可能エネルギー発電所を活用した充電設備の設置について推進していく。⑤富士宮市地域循環共生圏推進協議会を設立し、地域課題を解決するための新たな事業や仕組みについての提案をいただき、それぞれの提案に応じた部会を設立し実現に向けた検討を行っている。令和4年度については7つの部会が活動し、この中には脱炭素に関する取組も含まれており、また実際に事業化され動き出す部会も出ている。



こんどう ちづる
近藤 千鶴
(無会派)

少子化や学校老朽化に伴う学校再編計画

問 令和4年と10年前の出生数は。

部長 令和4年は665人。10年前は1104人。

問 10年前に比べ4割減少。今までの答弁では、学校の統廃合は成り行かなくなったら考えると言っていたが、少子化は崖っぷちで、議論する時期にあると思うがいかがか。

教育長 庁内の議論は必要。学校の在り方については話を進める時期だとは承知している。

問 新しい学校づくりの議論は時間を要するので今すぐ動き出す必要を感じるがいかがか。

教育長 令和5年度、県で学校規模検討委員会を行うとの情報があり当市も参加する。統廃合ありきでなく学校の在り方を庁内で進めていく。

問 統廃合のことを数字で示したり、地域へと話題を提供しているのか。

教育長 統廃合の話はしていない。地域の理解を得て進めていくことが、富士宮市の教育を充実させる一番大きな視点である。

意見 一番大事なのは子どもの気持ちであって、富士宮市に住む子どもたちが同じ教育環境の中で同じ教育を受けてもらいたい。

有機給食及び給食の無償化について

問 有機給食を取り入れるための協議会設置を考えていないか。

部長 他の市町村の先進事例の情報を収集し、有機農業者から意見を聞き、庁内の関係部署や外部の関係者と連携し、有機農業振興に資する方策について検討していく。

問 学校給食の無償化について当市の考えは。

部長 全国では学校給食の完全無償化を実施する自治体もある。静岡県知事が給食費を含めた子育て支援策を検討していることから、今後の状況を注視していく。国へ強く要望していく。

意見 有機農業の方が富士宮市に彩りを与えている。有機給食による生計の安定を望みます。